
【特集 2】地球時代に向き合う教育学を求めて

佐藤広美 「『地球時代に生きる』とは何か—堀尾輝久対話集を手がかりに—」『教育』旬報社、2022 年 7 月号、76-83 頁

1. 地球時代とは何か—1945 年を起点とする

- ・ 定義 ……「地球上に存在するすべてのものが一つの絆によって結ばれているという感覚と認識が、地球規模で拡がり、共有されていく時代」（堀尾）
- ・ 地球時代の始まり ……1945 年
- ・ 吉野との対話から発せられた堀尾の言葉は「人間の生き方への根源的な問いを含み込んだ端的な表現」

Q1990 年代から使用、なぜか、その背景は

Q2「人生における究極の真理というものは、簡潔な直截な言葉で表現される」（吉野）

Q3 地球時代生きるひとつの絆によってむすばれるとは

* 排除から包摂への視点

* 分断ではなく共生

2. 「戦後思想を深める」ということ

- ・ 「地球時代を生きる」ことの意味
 - ……「国民の教育権論」批判に対する堀尾の応答が用意されている。
 - 後藤道夫はマルクス主義の立場から堀尾の国民の教育権論批判を行った。
 - 堀尾理論では 1970 年代に成立した大衆国家における労働者の馴化問題（体制への同意調達）が扱われていない
- ・ 石田雄 ……「体制に対抗する運動」の思想を問題にする。運動を担う側の「加害」に対する意識形成の重要性を指摘する。
 - 安保、沖縄返還、水俣、従軍慰安婦、戦後補償、3.11 原発災害。抑圧移譲の重層構造の中で生きるわたしたちは加害と被害の両面をもっている。
 - 加害の抑制と被害者の側に立って物事を見る思想を鍛えること。「永遠の課題としての他者感覚」を大事にする以外にない。
 - 堀尾の応答は戦前と戦後の連続しているのではないかという石田の指摘に賛同する。その背景には大正から昭和にかけてファシズムへの移行期に天皇制ファシズムが、国民大衆の同意調達に支えられたもの、とする堀尾の研究があった。
- ・ 堀尾の指摘 ……8 月 15 日をどう捉えるか、戦後改革は何だったのか、戦前戦後の抑圧構造（馴化・同調）の連続性の他に、違いもある。戦後改革の理念を保持した私たちの歴史的経験は無視できない。堀尾は後藤の批判に「地球時代に生きる」の思想で応えようとした。

3. 「普遍人間的なもの」

- ・ 吉野の「普遍人間的なもの」
敗戦から 1970 年頃までの政治状況と言論界、ジャーナリズムにおける知識人との協力

関係は、1960年代まで。その後は協力関係が困難

- ・学問の専門分化、細分化により政治問題や社会問題に対する発言を慎む傾向。
- ・「梗塞状態」の打開として「専門性を越えた、どの専門でもある普遍的人間的なもの」に取りかかる必要があった。
- ・今日の危険は、普遍的人間的なものへの志向の欠如にある（堀尾）
 - …ヒューマニズムの回復・復権として捉えることは、教育の思想を豊にする。
 - 吉野の「君たちはどう生きるか」に描かれた、人間の迷いや弱さ、失敗、暖かい思いやり、愛着に繋がる…人間の信頼
- ・堀尾・吉野対談は、人間の全体性を捉える思想のリアリティとは何か、を考えさせる

4. 苦しみへの共感から

- ・フランクフル『夜と霧』…内面的に深まる人びとの存在
 - 豊かな内面の形成は絶望の中でも人間に希望を与える。
- ・池田香代子…「地球時代は、分かち合う側に立つんだと一人ひとりが決心するところに成り立つ」
- ・堀尾…「共苦の感情を持つ努力から希望の質も変わってくる」
- ・「苦しみへの共感から未来への希望」をどう分かりやすく語るのか。

* 共感共苦の思想

5. 革命へのエートス

- ・丸山真男…「敗戦直後のあのときにさかのぼれ。8月15日にさかのぼれ。その時点の気持ちというものを、いつも生かして思い直せ」
 - （堀尾）丸山は「復性復初」をものごとの本質、事柄の本源を見ていた。1945年を思考の座標軸とし、現代を地球時代の入り口としてとらえようとする主張もその源初はここなのである。
- ・堀尾は丸山の政治学に教育の思想を読み解く。
 - 人間一人一人が内面的個性の独立をめざし未来に向かって共に生きようと決意
 - 丸山の歴史的体験を探究する必要性、その二つの課題①近代の実現、②近代を越える
- ・革命のエートス
 - ①堀尾のソ連型社会主義への違和感
 - ②丸山が見せるマルクス主義への共感～一般庶民の人格的解放
 - …ロシア革命のエートスがその国民に与えた精神的更正への評価
- ・「地球時代に生きる」の形成
 - …個人の内面そして人格の尊厳といった観点を抜きにしてコミュニケーションを語るわけにはいかない。